



ごみ

グリーンセンターの広域化への進捗状況は

「私の視点」

少子化が進みごみの焼却が減ってはいても、グリーンセンターは35年間稼働してきた。今後は広域的な焼却施設の建設が求められているが、まだまだ道のりは長い。

答弁（町長） 建設まで早くても10年以上かかる見通し

問 町の焼却施設は平成2年に竣工し、その後改良を加え継続運転してきた。現在は年に1億円を超える整備工事費がかかっている。町単独で維持することが困難になり、国でも焼却施設の統合を推進している。広域化への見通しはどうなっているのか。

答（町長） 令和5年11月に「前橋・桐生・伊勢崎・みどり・玉村一般廃棄物処理広域化協議会」が設立され、広域化処理に向けて協議を進めている。

協議会では、対象地域、整備目標年次、施設の種類、規模及び内容など、広域化処理の基本方針を協議・決定することになっており、これまで協議会を5回開催している。広域化での新しい焼却施設は、4市1町の人口規模や対象地域を考慮し、建設まで早くても10年以上かかる見通しだ。



ごみのリサイクルや減量化を心がけ、老朽化したごみ焼却施設の負担を減らそう。

なお、令和9年度以降の町グリーンセンターの延命化については、今後さらに多額の整備費がかかることから、焼却の委託も含め検討していく。

テニスコートの改修工事の内容は

問 総合運動公園にあるテニスコートの改修工事はどこをどのように改修し、時期はいつになるのか。

答（教育長） オムニコートに改修してから12年目に入った。平日・休日問わず多くのプレーヤーがテニスを楽しんでいて、水はけのよさや表面の砂の混ざり具合など、とても使いやすいとの評判だ。ただ、照明ポールは、プレーに支障を来す位置にあるため改善の必要があり、トイレの老朽化もある。防風ネットは、今年度中に全面交換する予定でいる。

しかしながら、今年度に総合運動公園管理棟の設計、来年度には改修工事を控えており、B&G海洋センターの大規模修繕も同時期に行うことから、テニスコートの大幅な改修は、それらが完了した後の実施になる。

体育施設の維持管理には大きな財政負担が伴うためご理解いただきたい。



庁舎

役場庁舎増築のスケジュールは

「私の視点」

町の業務は多様化し、職員の業務量も増え、庁舎も手狭になってきている。住民サービスを行っていく上で庁舎整備をしていくことこそ良いサービスが提供できる。

答弁（総務課長） 来年度に設計、その翌年に建設に着手したい

問 現在の庁舎内では手狭となっている状況を踏まえ、建物整備をなぜ進めないのか。現在の状況で職員が働きやすい環境と言えるのか。

答（町長） 来庁者の待合スペースの狭隘化^{きょうあいか}、会議室や相談室のスペース不足の解消と、職員の働きやすい環境の構築等を目的に、DX化の推進と合わせ、役場庁舎の増築に向けて、今年度、基本方針をまとめる予定である。

問 現在分かっている範囲での増築予定は。

答（総務課長） 素案の素案のたたき台だが、庁舎北側に増築予定で、最低でも2階、3階までできればと思っているのでこれから検討していく。

問 1階ロビーも狭いので、屋根のある部分まで広げることにについて、予定はないのか。

答（総務課長） 現状では考えていなかったが、実際増築可能かも含めて検討材料とする。

問 建設スケジュール予定は。

答（総務課長） 今年度中に方針を決定し、来年度に設計ができて、その翌年に増築に取りかかれればと思っている。

問 役場職員の業務量の統一化が図られておらず、専門スタッフなどの一部の人に負担がかかっている状況はないのか。

答（町長） 近年、災害の頻発化や人口減少対策のほか、国の制度改正への対応、さらには社会ニーズの多様化に伴い、職員の担う業務量が増加しているが、統一化することは困難である。専門スタッフに限らず、一部の人に過度な負担

がかかってしまう状況は、克服すべき重要な要素であり、限られた人員や予算の中で、質の高い行政サービスを提供するには、常に意識して取り組んでいかなければならない重要な課題であると認識している。

玉村町の観光及び地域振興

問 観光行政とは何だと考えているのか。

答（経済産業課長） 私的見解も含めて、誘客することによって地元経済効果をもたらすとともに、地元のPRにつながり、地域振興に直結する事業と考える。



役場は町民が立ち寄りやすい場所。職員が働きやすい場所でないといけない。